

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第1号

2024年11月7日

真庭市議会
議長 小田康文様

真庭市議会議員 伊藤義則

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 佐賀県嬉野市

11/21嬉野市社会文化会館 宿泊 ホテルブリスヴィラ波佐見

11/22現地視察研修

3 内 容

11/21大雨災害からの復興と未来への一步

11/22歴史と文化、農業再生

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



参加者 古南源二 伊藤義則 福島一則

行程表		本庁	岡山駅	博多	武雄温泉	嬉野温泉	会場	ホテル
11月21日	交通	自家用車	JR	JR	JR	JR	TX	TX
	時刻	5:30	6:51	8:28 8:38	9:38 10:01	10:07	12:30	
11月22日	交通	ホテル	嬉野温泉	嬉野温泉	武雄温泉	博多	岡山	本庁
	交通	TX	TX	JR	JR	JR	JR	自家用車
	時刻	8:25	8:45	13:39	13:44 13:47	14:53 15:00	16:39	18:30

報 告 書

2024年12月4日

真庭市議会議長 小田康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 伊藤義則



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 2024年11月21日（午前・ <u>午後</u> ）1時00分 至 2024年11月22日（午前・ <u>午後</u> ）1時00分
2 場 所	11月21日 嬉野市 嬉野市社会文化会館「リバティ」 11月22日 嬉野市 スマートアグリ宮ノ元、塩田津の町並み
3 用 件	11月21日 災害NGO結 前原土武 氏 基調講演 11月22日 新規就農者の確保・育成、定住推進のためICTを活用して省力化・高収量・高品質生産を目指す 施設園芸団地と塩田津の魅力発信の様子を見学。
4 概 要	参加者 福島一則、古南源二、伊藤義則



報告書（継紙）

【11/21】 災害NGO結 代表 前原土武 氏 基調講演「自然災害と共に歩む」

○30か所以上の災害支援の中で感じたこと。

1)自分1人のスコップを動かすより1,000人のスコップを調整する方が復旧・復興に結びつく⇒「広域支援ベース」

2)緊急支援、育成、伝える活動が、特に被災地の今を、SNSとか講演で刻々と伝える活動が必要である。

3)プロの災害支援者がいてもいいのでは

4)「助かったモノを救う」

① 助かった命（炊き出しや物資）

② 助かった財産（車、写真、大切なもの）

③ 助かった地域（コミュニティ、サロン）

④ 助かった産業（酒造り、漁業、農業、観光）

5)平時からの多様な主体との連携が必要である。

⇒平時に出来ないことは有事（災害時）にも出来ない。平時から出来ることを増やし課題解決力を高めよう。地域の力に変わります。

① 外部から必要な支援を受け入れる力

② 多種多様な方々との連携

③ 地域で顔の見える関係、1人で出来ることを増やす（自助、互助）

【11/22】 ○「スマートアグリ宮ノ元」

1)新規就農者の確保・育成・定住のための施設園芸団地である。

2)トレーニングファームで2年間研修を受けた新規就農者の受け皿。

3)入植者は農地の確保、園地整備をしなくてよい。

ハウスを14年リースで入植者に貸与する。入植者の初期投資はない。

4)若い新規就農者が入り、消滅可能性都市から脱却の一助になった。

○塩田津町並みの見学

町並み保存会の活動をガイド部会、朝市の会、おもてなし部会、ときの部会、ハナミズキの会、イベント部会に分かれて塩田津の町並み保存活動をブランド力向上のために行っている。

ガイド部会は10人で、毎月勉強会を行い情報共有を行っている。

報 告 書

令和 6 年 12 月 3 日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南 源二 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	
	自	令和6年 11月21日 (午前・午後) 5時15分
	至	令和6年 11月22日 (午前・午後) 6時30分
2	場 所	21日 佐賀県嬉野市塩田町大字五町田甲628番地「嬉野市社会文化会館」 第16回全国水源の里シンポジウム基調講演。 パネルディスカッション:「災害からの一歩・街並みの取り組み」。 22日 嬉野市内スマート農業視察、長崎街道塩田津の街並み視察。
3	用 件	11月21日: 基調講演: NGO結代表前原土武氏の基調講演拝聴他 11月22日: スマートアグリ他街並みの取り組み視察
4	概 要	参加者: 古南源二、伊藤義則、福島一則以上3名

行程表 行き 出発5時30→自家用車→6:51岡山発新幹線→嬉野温泉駅着10:07

宿泊: ホテルブリスヴィラ波佐見

帰り 13:39発嬉野温泉駅→岡山駅着16:39→自家用車帰着18:30

内容：村上嬉野市長の開会あいさつ「図1」に続き山崎綾部市長、副知事等の挨拶の後写真コンテストの表彰が行われた。今年は709点の応募の中から選ばれた。

基調講演：災害NPO結代表前原土武氏。

「自分一人がスコップを動かすより、1,000人のスコップを調整するほうが復旧・復興に結びつく」との観点から災害支援の調整役を過去30か所以上で行っている。災害支援の中で様々な技術支援団体と連携し、災害ボランティアセンターの運営支援だけでなく長期的な復旧復興



図1

を念頭に置いた総合的な被災地支援を提案している。能登では、水害後に専門技術を持った大工に床板をはがしてもらい、泥のかき出し作業の後は、配管工に水道を直してもらったり、専門職との調整が必要なが分かった。

パネルディスカッション：コーディネーターに佐賀災害支援プラットフォーム共同代表でもある山田健一郎氏は、サッカー協会のB級ライセンスを持ちNPOの支援を受けて子供たちにサッカー教える活動を行う傍ら佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）の共同代表として、被災者・支援者共に活動がしやすい環境づくりの構築に尽力している。

パネリスト：三根孝之氏は三根孝一緑茶園の経営者。国立野菜・茶業試験場を卒業後就農。令和元年には若手農家が個包装したお茶を地域の子供がパッケージに描いた袋に入れ、切手を貼って郵送する「グリーンレタープロジェクト」を立ち上げた。放棄されたお茶畑にクヌギを植栽して人の集まる場所づくりに携わり県内で精力的に地域づくりの挑む人「SAGA LOCARIST」に選定された。蒸し製玉緑茶の部で令和5年全国茶品評会農林大臣賞を受賞されている。

杉光敬一郎氏は長崎街道の宿場町塩田津の陶磁器展を継承しながら、地元消防団に25年間従事、地域防災のために尽力した。塩田津街並み保存会理事長として歴史的町並みの保存活動に長年取り組み、佐賀県南西部の物量拠点であった塩田津川の浄化活動を継続して取り組むなど地域のブランド力向上に努めている。

山口たか子氏は12年前から夫とともに地域の伝統である釜炒り茶の生産に取り組んでいる。嬉野南部釜炒茶業組合の委託販売・ネット販売・インスタグラム発信・H

P作成に携わる一方、県と連携したブランディング戦略の見直し、パッケージの変更
に力を入れ、女性の強みを生かした新商品開発に取り組んでいる。令和3年の豪雨で
自宅の石垣が崩れるも復旧し、令和5年釜炒り茶の部で国茶品評会農林大臣賞を受賞
されている。

副島瑠美氏は旅館吉田屋の経営者であり、女性をターゲットにした戦略や新しい手
法を積極的に取り入れ旅館の再生に成功した。佐賀県お土産2024アワードでは一
から工房を造り開発した洋菓子が1位を受賞した。観光を通じ、地域産業と地域経済
の活性化に取り組んでいる。

長尾智子氏は会場の司会進行を務めながらパネリストにも登場した。大学や百貨店
の勤務ののち佐賀で両親自営の茶園に勤めながら農業委員もしている。お茶づくりの
傍らお茶のイベントの活動を広げ海外からのお茶畑ツアーを主催するなど地元茶業
の振興に尽くしている。自らを茶癒人と呼ぶ。

災害からの復旧・復興の支援は重要なことであるが災害地の地理的条件や災害地の
基礎的生活状況を加味したうえで支援を行うことが重要と感じた。嬉野市は過去に浸
水被害を幾度も経験していた。パネルディスカッションでは災害と地域特産のお茶を結
び付けるには少々無理があったように思われる。お茶を通じての地域振興は興味を持
ったところである。

視察では、歴史と文化、農業再生コース出会った。新規就農者の受け皿としての大
規模施設園芸団地スマートアグリ宮元のハウス「図2」を見学。

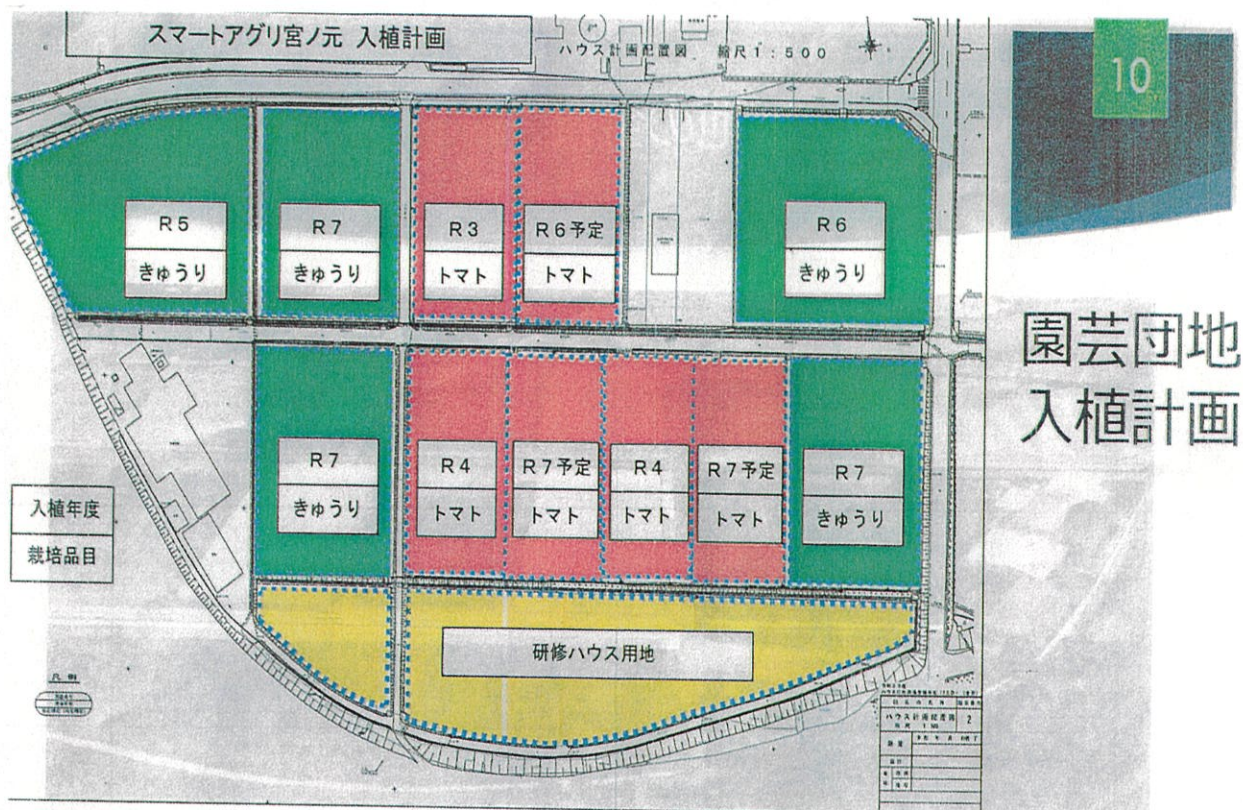
農業担い手の減少及び高齢化が進行する中で、意欲のある新規就農者の確保・育成
を図るとともに、定住促進のために、嬉野市が主体となり佐賀県・JAと共に生産基盤
を整備し、最新鋭の環境制御機器を備えた施設によりICT
を活用して省力化、高収量、高品質な生産を実践する全
国トップクラスの施設園芸団地である。

この施設で2年間実習を積み巣立っていく。自立する
場合はJAが施設の建設を行い14年間のリース契約で施設
を利用する。20aの施設ではキュウリやトマトの生産を
行い2000万円の売り上げを目指し、秋から路地物が出回
るまでの期間で栽培する。キュウリでは30トンの収穫が



図2

る。40トンの生産をする人もいる。1キログラム約280円で出荷し、30%が手取りとして残る。施設自体は年々資材の高騰があり、3000万円で出来ていたものが今では5000万円かかるが補助もある。



街並み視察では、古くからの長崎街道に面した街並み「図3」が重要伝統的建造物群保存地区に指定されている塩田津の歴史を紹介された。

有明海からわずか6km程離れているだけなので満干の差が6mもあり、旧塩田川を利用した物流の拠点があり、陶磁器の原料になる陶石の運搬が盛んであった。近年でも陶石の製造工場があり陶石の配合割合を注文により製造し各地の窯元に発送している。

オープニング会場では、釜炒り茶の製造実演が行なわれており、斜めに設置した釜に生茶を入れ、素手で乾燥するまで炒る製茶行程を始めてみた。

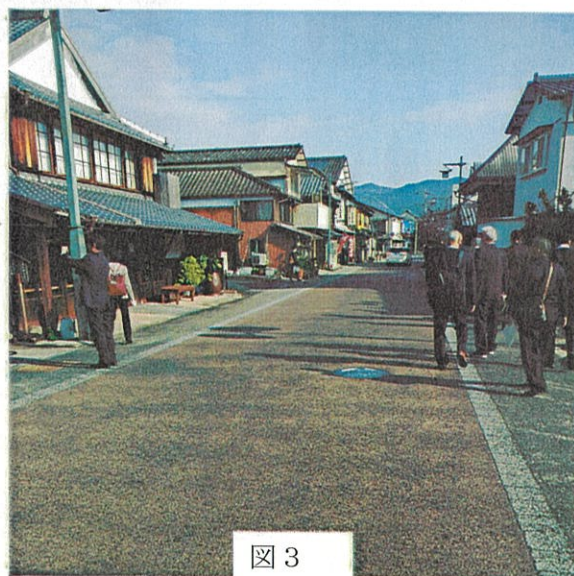


図3

出会った人

人間兄弟 四カチヤサガ 男	綾部市議会議長 松本幸子	 中川町 地域振興課 地方創生係 係長 稲越 崇文 〒098-2892 北海道中川郡中川町字中川 337 番地 TEL (01656)7-2819 FAX (01656)7-2594 nakagawa-chikishinko@town.nakagawa.hokkaido.jp
------------------------------	-------------------------	---

うれしの茶 古式釜炒手揉み KAMAIRICHA made in Ureshino, SAGA  宮崎 泰三 MIYAZAKI TAIZO 〒843-0302 佐賀県嬉野市嬉野町 大字下野甲 155 Tel.(0954)42-1712 昔からの、お茶の味を 今に繋ぐ...	嬉野南部釜炒茶業組合 山口 孝子 TAKAKO YAMAGUCHI 販売代理店：株式会社アソフールド 嬉野市嬉野町大字不動山甲2681 Email
---	---

佐賀県嬉野市

副市長 早瀬 宏範

〒849-1492
佐賀県嬉野市塩田町大字馬場下甲 1769 番地
TEL(0954)66-3111 内
FAX(0954)66-3119
E-mail




報 告 書

令和6年11月25日

真庭市議会議長 小 田 康 文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 福 島 一 則



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自令和6年11月21日（午前・午後）5時30分 至令和6年11月22日（午前・午後）22時00分
2	場 所	嬉野市社会文化会館（リバティ）文化ホール フォトコンテスト表彰式 基調講演パネルディスカッション 嬉野市中央公民館 スマートアグリ宮ノ本
3	用 件	全国水源の里シンポジウムin佐賀県嬉野市 フォトコンテスト表彰式 前原土武氏基調講演 パネルディスカッション 交流会 視察
4	概 要	参加者 福島一則、古南源二、伊藤義則 3名



報告、

フォトコンテスト表彰式に続いて前原土武氏の（自然災害と共に歩む一地域のつながりで守る命）と題して基調講演が行われた。

災害NGO結の代表として、日本全国で支援活動をしてきた経験を紹介しながら

災害地で浮き彫りになった現代社会の問題に対し、

現場活動の総合的なコーディネート、情報の集約、共有、課題の見える化

災害のボランティアセンターの立ち上げ支援

地元組織、団体の立ち上げ、運営支援等の活動

被災地で体験したことの（被災地の今）を届ける講演活動を行っている。

事例を挙げながら各地の災害の様子を紹介し能登半島地震後の支援活動をしている。

パネルディスカッションにおいては

山田健一郎氏をコーディネーターとして

三根孝之氏から

放棄茶園対策（人が集まる場所作り）の実践と繋がりえを精力的に地域作りに挑んでいる紹介があった。

山の課題を考えていく、新商品の開発に取り組んでいく。

杉光敬一郎氏から

歴史的大火に度々見舞われた塩田津において、消防団活動に約25年間従事し地域防災の為に尽力する。塩田津の歴史的町並み保存活動に取り組む

浦田川の浄化活動を継続して実施し塩田津のブランド力向上の

為奮闘している紹介があった。

色々な会を作り部会ごとに協力して町並み保存活動に取り組んでいる

山口孝子氏から

夫婦二人三脚で共稼ぎをしながら釜炒り茶の生産をしながら、

嬉野南部釜炒茶業組合の販売代理会社の小売担当として組合の委託販売

ネット販売、インスタグラム発信、ホームページ作成、などをしながら

県等と連携してブランディング戦略の練り直し、小売りパッケージ作成

女性の強みを生かした親しみやすい新商品開発に協力している紹介があった

災害地区が連携して繋がりを作っていく。

副島留美氏から

女性をターゲットにした戦略や新しい手法を積極的に取り入れて旅館の再生に成功した、お茶のブレンドや手もみ体験ができる宿泊施設などの取組、地元産にこだわったカフェやショップなど展開し洋菓子などの開発などをして地域産業と地域経済の活性化に取り組む。

永尾智子氏から

嬉野に移住しお茶畑との出会い、お茶作りの傍ら、お茶のイベントなどの活動を広げ、海外おからのお茶ツアーなど主催して地元茶業の振興尽くしている

各学校などに出向いてお茶の入れ方を指導しながら販売宣伝などを行う。

名刺交換会にて

名刺交換しながら色々な意見、歴史的町並み、釜炒り茶についての話をした。

22日の視察について

農業担い手不足、減少及び高齢化が進行する中で、意欲ある新規就農者の確保、育成を図るとともに、定住促進のため嬉野市主体となって生産基盤を整備し環境制御機器を備えた施設によりICTを活用した省力化、高収量高品質生産する施設園芸団地（スマートアグリ宮ノ元）の視察
塩田津の国選定の重要伝統的建造物群保存地区の視察

感想

防災については災害時においては地域の力（団結）等が最も重要であり
災害予防、災害応急対策、災害復旧などの切れ目のない実践モデルの構築を目指し、地域防災計画、災害対策の充実をはかるためには、自治体が中心になって災害研修センターを作るべきだ。

新規就農者を確保する為には、農業のトレーニング（技術取得、経営ノウハウ移住、独立就農、農地確保、施設整備等に関する、各種の情報相談できる研修センター（実践出来る施設等）を作るべきだ。